

「ぬくもり」と「おかげさま」のところで

# あそかビハーラ病院便り

西夏掛

むゆうじゅ 第9号

2021.6.1 発行 あそかビハーラ病院  
〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3  
TEL 0774-54-0120 FAX 0774-54-0121  
E-mail: kanwa@asokavihara.jp

いま 私にできること  
私のいのちを  
大切にすること  
他の人との  
いのちを  
大切にすること

浄土真宗本願寺派（西本願寺）  
ポスターより

## 職員募集のお知らせ

新型コロナウイルスの流行により、医療現場で働くスタッフが不足しており、スタッフを募集しています。

○看護師（常勤・非常勤）

○看護補助者  
(環境整備・入浴介助など)

○地域連携室・相談員

○医療事務（非常勤）

○薬剤師（非常勤）

※詳細につきましては当院までお電話にて問い合わせください。

## ●新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの流行を受けて、各医療機関はその対応に追われています。ウイルスを院内に持ち込まないために、面会制限を設けることが、取るべき手段とされています。多くの病院が面会を不可とし、家族は着替えだけを病棟詰め所で受け渡すのが一般的です。

緩和ケア病棟であつたとしても、配偶者ならびに一親等（父母や子）までの家族に限り、一日二名かつ十五分以内の面会なら許可をする、そのような面会制限がなされています。直接の面会は出来ないが、工夫をこらしてタブレット端末でのリモート面会を取り入れる病院もあります。

しかし、思うように面会ができない家族の葛藤、最期の瞬間に家族が立ち会えない状況などがマスクでも取り上げられ、度々話題になっています。会いたい人に会えない…。それは家族だけでなく、入院中の患者さんにとっても同じことです。病院とう社会と隔絶されたなかで、死と向き合いながら病室の壁をみて過ごす空間。いつ面会制限が解除されるか

もわからず、先行きがみえないなかでただ死を待つ時間。会いたくても会えず、その思いすら届けることもできない家族の悲歎。どんな表情で、何を思い病院で過ごしているのか、それすら知ることもできないなどかしさ。

ウイルスに感染すれば更に病状が悪化する恐れもあります。治る病気であれば退院すれば家族と会えるのですから、面会を制限するのはやむを得ない手段といえます。しかし、あそかビーラ病院に入院する患者さんの多くは、自宅への退院が望めない方です。そのような状況下で面会を制限することは、ご家族の心に大きな傷を残しかねません。面会をどうするか、その対応に苦慮しました。

## ●人と人とをつなぐ

一般の病院ではコロナ禍でなくとも、面会時間が設けられ、限られた時間の範囲内でしか面会すことができるかもしれません。それに対して、あそかビーラ病院を含む、多くの緩和ケア病棟では、面会時間の制限を設けず、二十四時間面会が可能でした。それは、緩和ケアの目的が病気の治療ではなく、患者さんを人として、存在そのものを支えることが目的だからです。

## ●実際の対応

○独立型の強みを活かして  
当院は全国でも数少ない独立型の緩和ケア病



↑病室から庭に面した掃き出し窓。面会の方は窓から直接出入りして、極力人と人が接しないようにしました。

「ぬくもり」と「おかげさま」のこころで

棟。各病室が庭に面していて、窓の下部が床まである掃き出し窓。窓から出入りができ、換気もしやすくなっています。人が多く出入りする正面玄関の使用を避け、庭から直接病室に入ることができ、共用部分の利用も極力控えていただき、感染予防に活かすことができました。

## Wi-Fiルーターの増設

リモートでの面会対応のため、Wi-Fiルーターを貸し出し、通信料を気にせず遠方の家族親戚とのリモート面会を可能にしました。実際にオーストラリアに住むお孫さんとリモートで面会し、また会いたくても会えないお孫さんの思いをリモートで僧侶が傾聴する場面もありました。

## タブレットの活用

当院では朝夕、ビーラホールでのお参りがありますが、たくさんのお参りは密になります。そこでタブレット端末を利用してお部屋とビーラホールをオンラインでつなぎ、お部屋で勤行に参加していたとき、法話をお部屋で聴聞できるようにしました。

## Facebookページの開設

当院は年間八百人以上の見学・研修を受け入れていますが、見学・研修については受け入れを中止しました。当院の教育機関としての役割や、社会への発信ができなくなりました。そこで社会への発

信を目的にFacebookページを立ち上げ、院内の日

常の様子をアップしホームページからも閲覧可能になりました。当初は社会への発信を目的にしていましたが、意外なところ、患者さんやご家族がFacebookを見られ、また、遠方でどうしても面会できないご家族がFacebookを通して病院の様子を知ることができますなど、病院と家族をつなぐツールとなりました。

## ●面会を受け入れて

感染予防につとめながら、直接の面会も可能になりました。

意識レベルが低下しスタッフの声かけにも反応を示されない患者さんが、お孫さんの声かけには目を開けて微笑みかえすお姿。職場の後輩に、自分の使命として命の大切さを伝えた患者さん。小学生の子どもさんと親子のかけがえのないひとときを過ごした患者さん。人と人との触れ合うことによって、「ぬくもり」と「おかげさま」が院内にあふれました。

西本願寺医師の会 会報誌 無量寿第7号より転載  
お互いが生かされ生きています。他者の喜びを自らの喜びとし、他者の悲しみを分かち合えること、そのような関係存在の中で、自分の存在の価値や人生の意味を見出することができます。

面会を制限しないことは感染リスクも高まりますが、「ぬくもり」は他者から与えられるもの。あそかビーラ病院では、感染予防につとめながら、今も二十四時間面会可能です。仏教の慈悲の精神に基づき、人と人との縁を大切にして、孤独のなかに置き去りにしないよう、院内スタッフ一同つとめてまいります。



† 病室の前に広がるビーラガーデン。  
患者さんご家族のくつろぎの場となっています。

「もしあのまま人生を終えていたら、あまりにも寂しく悲しく、どれほどの後悔を残したでしょう」  
ご家族がつぶやいた言葉です。

人は他者を支え、また他者から支えられながら、

「ぬくもり」と「おかげさま」のこころで



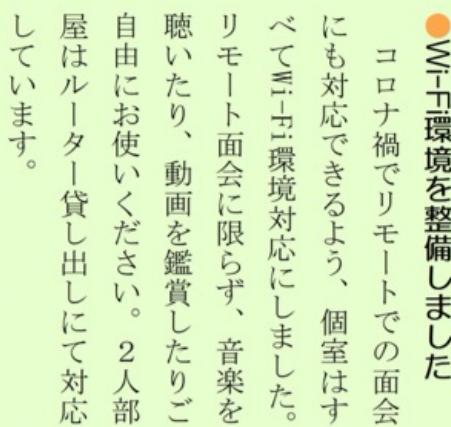
病 室 28床

**家族室 和室2部屋**  
ご家族様がお泊まりいただけます

**談話室（ファミリーキッチン）**  
調理器具が揃っており、自由にご利用いただけます。  
ご家族様の付き添い食も提供いたします（要予約）

**浴 室** (特殊浴室・機械浴室・一般浴室)  
付き添いの方もご入浴できます

# 看護師募集中



病院からのお知らせ

●フエイスブックページ開設  
病院内の様子はなかなか分からぬものです。少しでも当院を、そして緩和ケアを身近に感じていただけるよう、日常の様子をアップしています。ぜひご覧ください。



This map shows the route to Beppu-ponkyoji Temple (ビヒーラ本願寺) from Kyoto. It includes major roads like Route 24, Route 70, and Route 307, along with local streets such as Nishi Kameyama-dori and Higashikameyama-dori. Key locations marked include Kyotango Station (城陽駅), Uji Station (宇治駅), Nagibashi Station (長池駅), Kyotango Police Station (城陽警察署), Al Plaza (アル・プラザ), Kyotango (城陽), Tomonoura Elementary School (富野小学校), Tachibana Soba House (麹屋たけ井), Red Baron (レッドバロン), Daisan (大安), Wakkyu Mart (ワタキュー マート), Super Power Kyotango (スーパー・パウル城陽), and Seinen Irenban (セニンイレンバン). The map also shows the JR Kyoto Line and the Keihan Kyoto Line. A red box highlights the area around Asokaビヒーラ Hospital (あそかビヒーラ病院).

## お車の場合

- ①京都から：国道1号線より  
　　国道24号線（京都駅から約1時間）
  - ②大阪から：国道307号線を通って  
　　山城大橋を越え、国道24号線を北
  - ③奈良から：国道24号線を北へ

## 電車の場合

- ①JR 山城青谷駅下車、徒歩15分
  - ②近鉄 新田辺駅より、タクシーで15分
  - ③JR 京田辺駅より、タクシーで15分
  - ④JR 城陽駅より、タクシーで15分

現在の医療の質を保ちつつ、このコロナ禍を乗り越えるためにも、ともに協働していく必要があります。当院の喫緊の課題となつております。

お知り合いの方で、緩和ケアに興味をお持ちの方がいまして、ぜひお声掛けくださいませ。一日も早くコロナが終息することを念じます。

ナウイルスの感染拡大は先行きが見えずスタッフが疲弊しているのも現状です。

編集後記